

専大スポーツ

専大スポーツ | <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 474

専大スポーツ
編集部
公式WEB



掲載記事を含む全文はコチラ↑

X @sensuponow
Instagram sensuponow

積極的な攻めでポイントを奪う熊谷(立教大戦)



男子エペ リーグ戦

連覇



連覇を達成した男子エペチーム

関東学生フェンシングリーグ戦5月8〜14日、世田谷区・駒沢屋内球技場

男子エペが全勝優勝で、リーグ戦2連覇を達成した。

最終戦で対戦した慶大は昨年の公式戦で一度も勝てなかった強敵だった。一度はリードを許すも逆転に成功。その後は熊谷志孔(商3・北陸高)を中心に相手の追撃を振り切り、最後は下村祐翔(人間科学3・岩国工業高)が締めて、45-43で激闘を制した。

熊谷は「優勝を目指してみんなでずっと練習をしていたのでうれしい」と喜びをかみ締めた。多くの試合

でアンカーを任された下村は「みんなが声をかけて、自分に負担をかけすぎないように鼓舞してくれた。おかげで思い通りのプレーすることができ、良い結果につながった」と話し、チーム全員での優勝を強調。初日に肉離れを負いながら奮闘した泉怜臣(文3・岩国工業高)は、「自分が失点しても勝てる安心感があった」と振り返った。

関東王者として臨む6月の全日本学生王座決定戦に向け、熊谷は「優勝したい」と意気込みを述べた。また、男子フルールと女子サーブルがともに2部を全勝で優勝。入れ替え戦にも勝利して1部復帰を決めた。(佐藤佑樹・経済3) 写真も)

関東王座奪還



リーグ戦を全勝で終えた首藤(右)・遊佐組
撮影=君嶋悠樹(経済3)

首藤・遊佐組 3季連続の最優秀ペア賞

専大は第6戦で日体大に勝利し、最終戦を待たず3季ぶり46回目の優勝を果たした。最終戦も勝利で飾り、7戦全勝で関東王座を奪還した。

最優秀ペア賞には、7戦全勝の首藤成美(文3・希望が丘高)・遊佐美月(経営2・愛知みずほ大学瑞穂高)組が選出された。3季連続受賞の2人は、「全勝で受賞することができて本当にうれしい。特に日体大戦では、苦しい場面でも強気なプレーをしてくれた遊佐に感謝している」(首藤)、「練習の時から首藤さんが

優勝を喜ぶ部員ら 撮影=大石



元気づけてくれたので、自信をもって試合に挑むことができた」(遊佐)と互いへ

の感謝と、喜びを語った。ダブルスに加え、シングルスでも全勝した首藤は、殊勲賞と優秀選手賞も獲得した。「勝利でチームに貢献しようと思ってるので、受賞することができて良かった」と振り返った。

男子は、第2戦で今季を制した中大に敗れたことが響き、5勝2

鳳打線で2部圧倒 入れ替え戦進出決定



優勝の瞬間、マウンドで喜びを爆発させる部員たち

東都大学野球春季リーグ戦(2部) 4月7日〜5月27日、神奈川県・等々力球場ほか

町田公二郎新監督のもと、10勝1敗・勝ち点5と圧倒的な強さで2部リーグを制した専大野球部。東洋大との1・2部入れ替え戦は6月23日(火)、24日(水)に、新宿区・神宮球場で行われる。

注目は、チーム打率2割9分2厘、61得点を誇る「鳳打線」。4試合が逆転勝利と、先行されても点を取り返す力がある。主将の工藤翔斗(経営4・大阪桐蔭高)は「打力に自信を持っていったが、全員がかみ合って良い打線になった。良い形で守備から攻撃につなげることができた」とリーグ戦を振り返った。

中核を担うのは、打率4割7分1厘で首位打者を獲得し、最高殊勲選手にも選ばれた吉水真斗(経済4・松商学園高)だ。外野手部門の渡辺 維介(文3・松本国際高)とともに、

遊撃手部門でベストナインにも選出された吉水は「個人としてもうれし、チームに貢献するプレーができて良かった」と喜ぶ。積極的なバツティングで得点源となるだけでなく、リーグ戦の途中から1番に定着し、6割近い出塁率で先陣を切った。入れ替え戦は2022年秋季以来で、現在の部員たちにとっては初めてのことになる。吉水は「浮足立たずにいつも通りのプレーを心掛けた」と、工藤は「粘り強さが今年のチームの特徴。リードを許す場面があっても、最後まであきらめずに戦う姿を見てほしい」と意気込みを話した。(藤林利英・文3) 写真も)

入れ替え戦は6/23・24

入れ替え戦では、学生無料チケットと応援グッズ(チアスティック等)を配布予定。23日は一塁側、24日は三塁側に13時から受付を設置する(試合開始は14時)。学生証の提示が必要。チケットは事前申し込み優先で、無くなり次第終了。詳細は in Campus で。